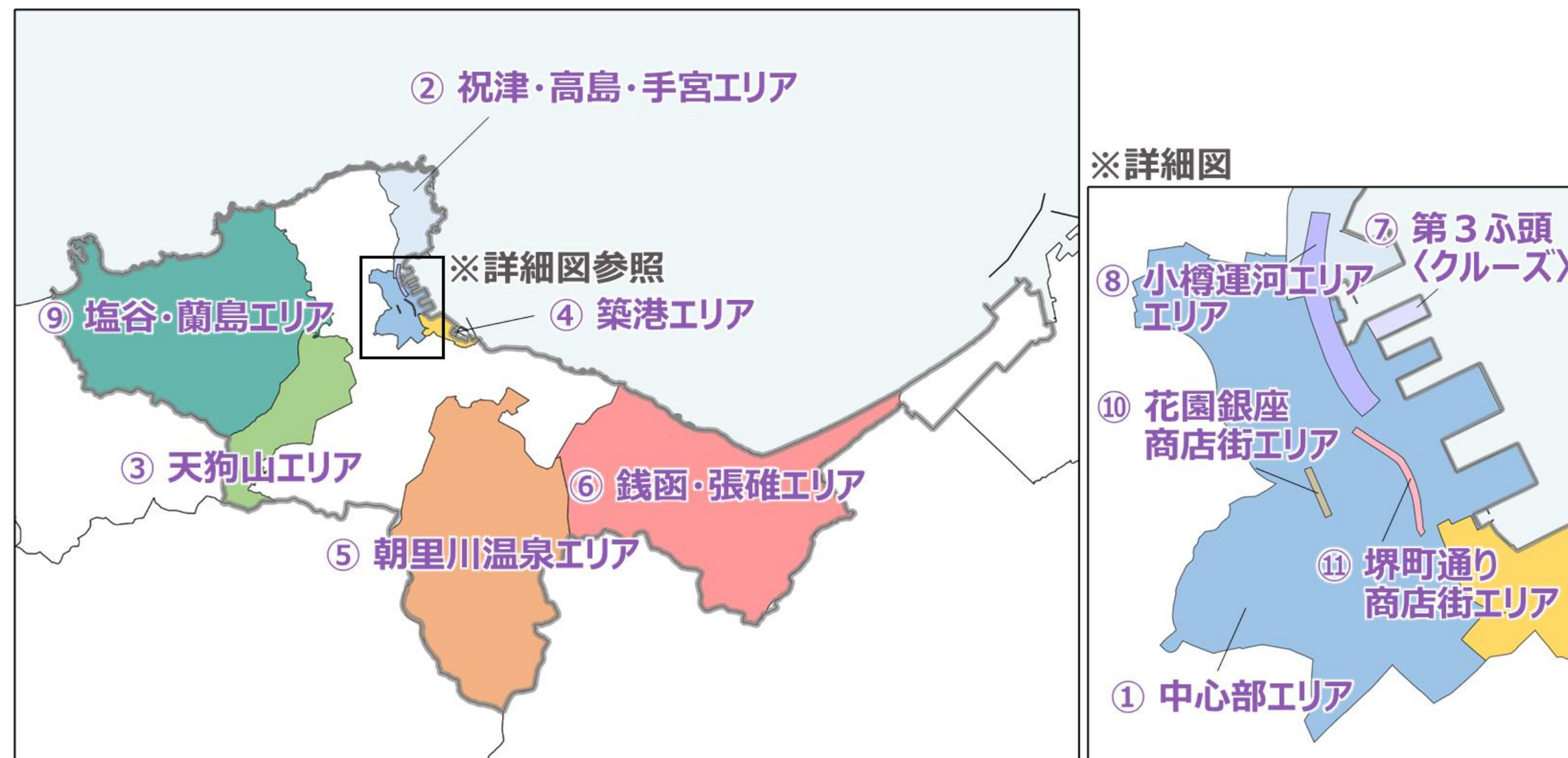


《概要版》 令和7年度 デジタル技術活用オーバーツーリズム実態調査

【業務目的（抜粋）】

- 昨今、小樽市においては外国人観光客の増加などによりオーバーツーリズムが深刻化しており、データ分析に基づく「打ち手」を検討する必要があることから、本業務においては、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準（令和5年改訂版）」の調査要領に準じて実施する観光入込調査結果を基礎として、GPS人流データを活用し多サンプルに基づく来訪者（国内・外国人）の動態調査を網羅的かつ解像度の高い形で行い、オーバーツーリズムの実態を把握することを目的とする。

【調査対象地】 小樽市全域のほか、以下の市内11エリア



【使用データ】 GPS人流データ「全国インバウンド統計」

携帯端末のGPS位置情報（日本人・訪日外国人）

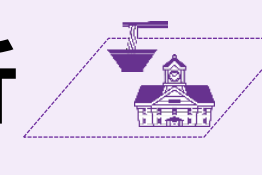
メニュー

施設来訪分析

※本業務では対象外



エリア来訪分析



広域周遊分析



分析項目

（居住国・自治体別）

入込客数 / 宿泊客数

来訪時間帯

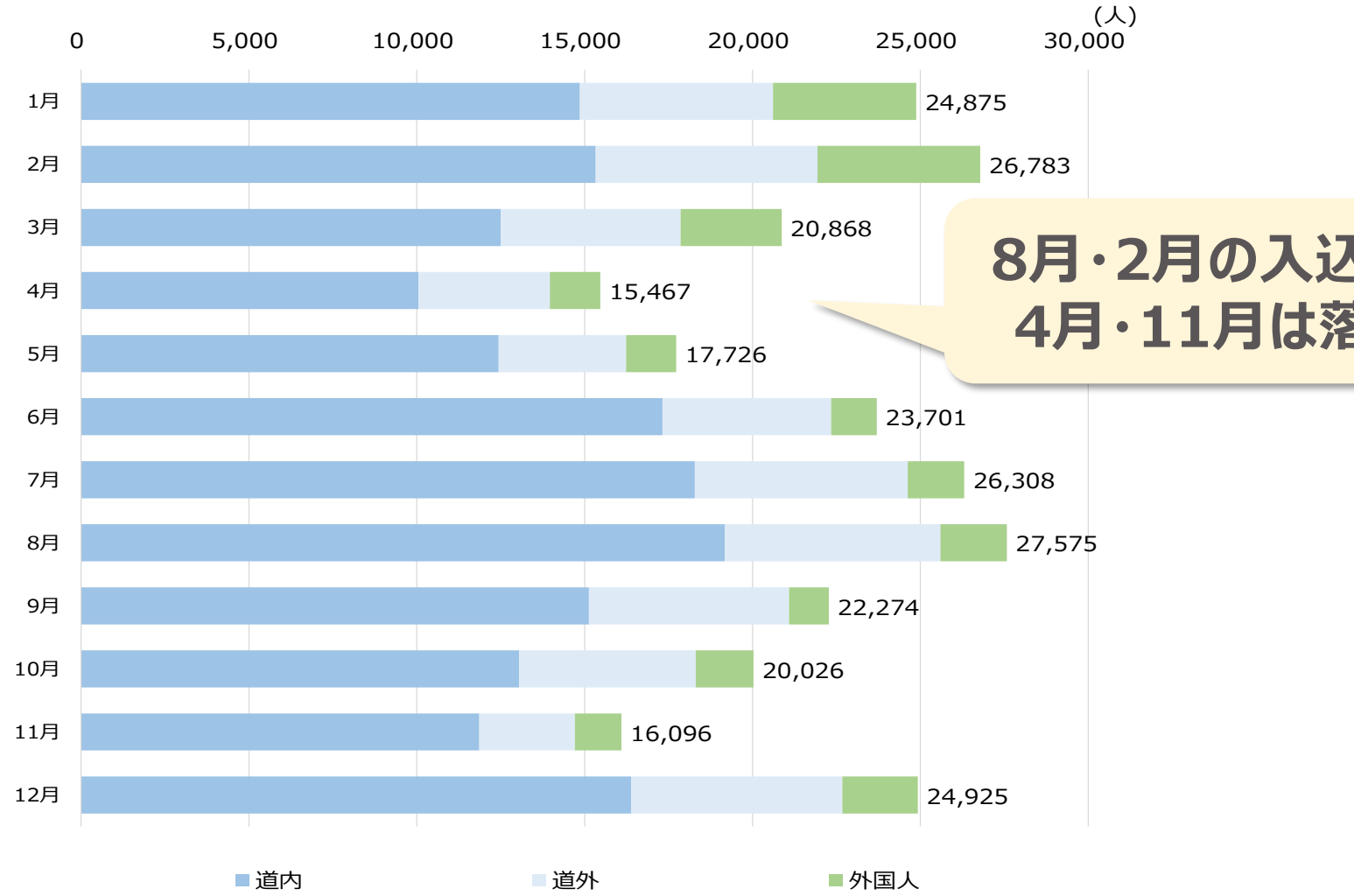
滞在時間 / 宿泊日数

前後立寄地 / 前後泊地

など

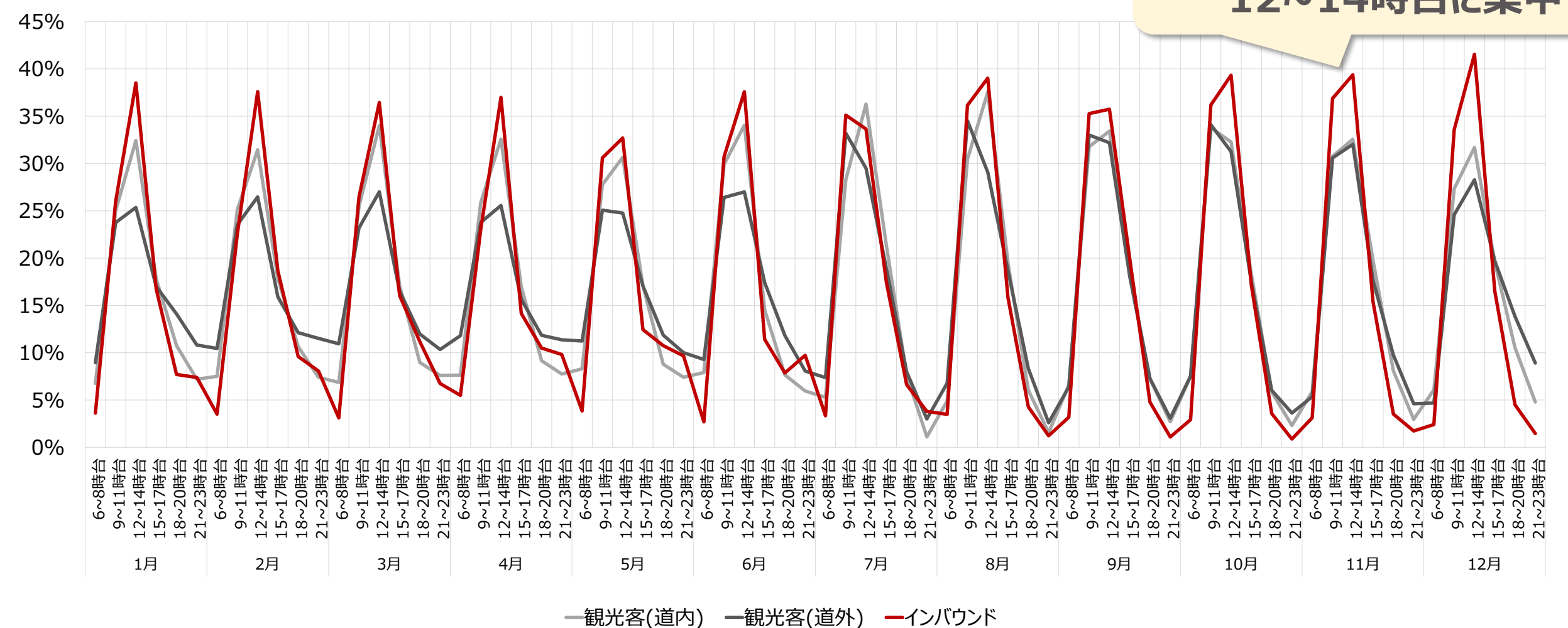
《概要版》 人流データによる分析結果（抜粋）

【観光入込客数：小樽市全域】 ※一日当たり



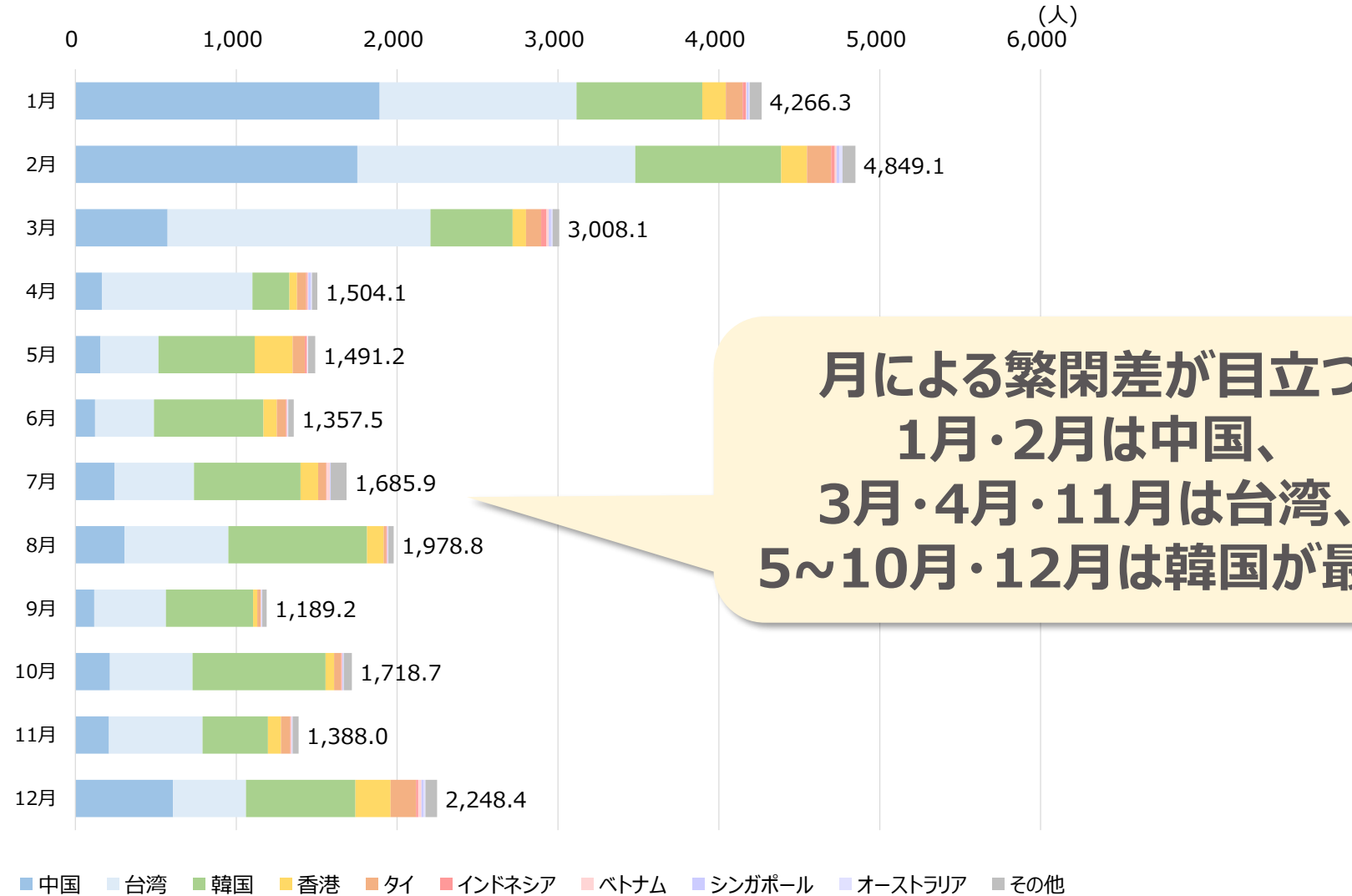
8月・2月の入込が多く、
4月・11月は落ち込む

【来訪時間帯：中心部エリア】



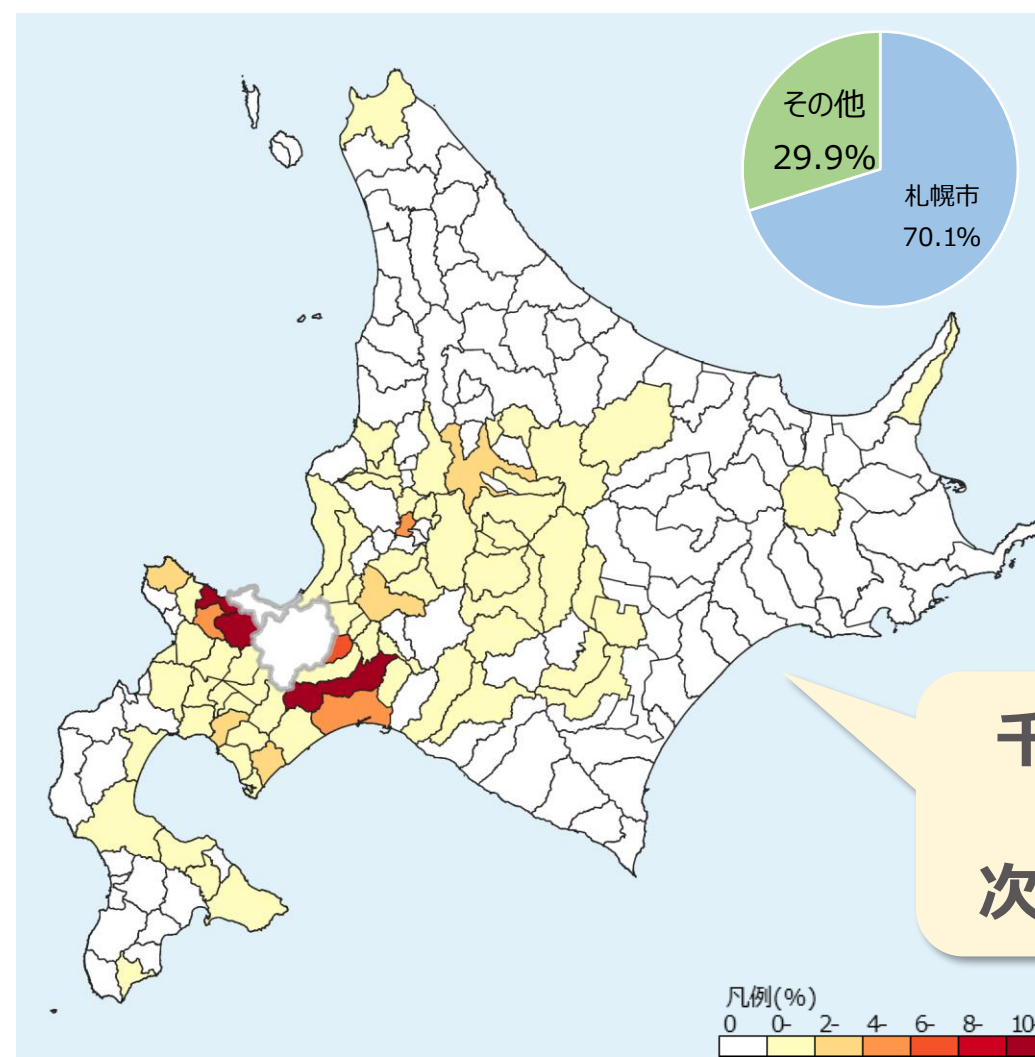
7月を除きインバウンドは
12~14時台に集中

【居住地：小樽市全域】 ※インバウンド、一日当たり



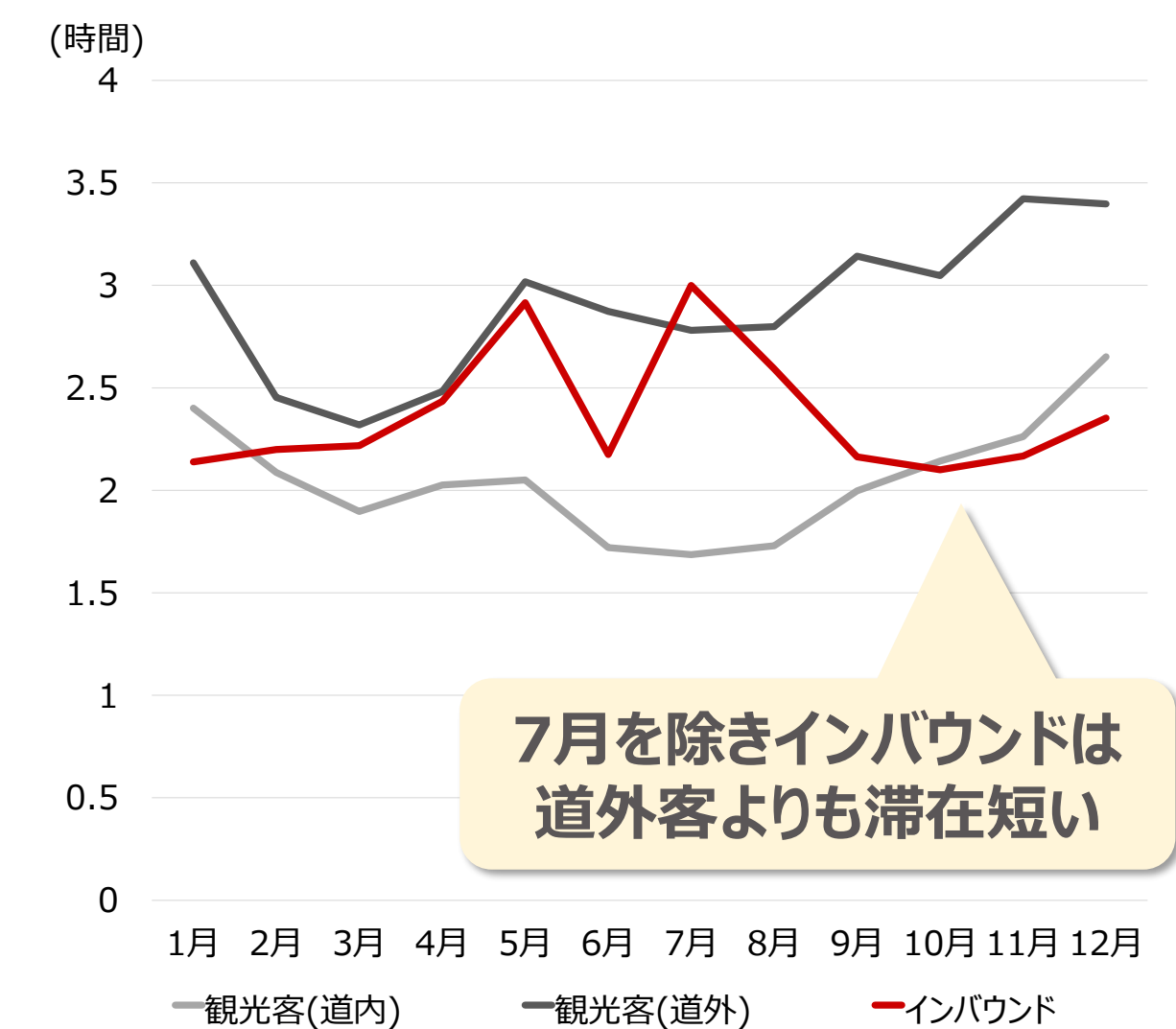
月による繁閑差が目立つ
1月・2月は中国、
3月・4月・11月は台湾、
5~10月・12月は韓国が最多

【周遊先：小樽市全域】 ※東アジア、札幌市以外



千歳・余市・赤井川
との周遊が多く、
次いで北広島が多い

【滞在時間：中心部エリア】



7月を除きインバウンドは
道外客よりも滞在短い

《概要版》 インバウンド観光の概況、今後に向けて

観点	小樽市全域の概況	エリア別の概況
入込客数・居住国	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 総数では、2月・1月の来訪が多く、9月・6月は落ち込む ➤ 国別では、1月・2月は中国、3月・4月・11月は台湾、5~10月・12月は韓国が最多 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 中心部エリア・小樽運河・堺町通り商店街では、5月に香港・12月にタイが目立つ ➤ 祝津・高島・手宮エリアでは、5月に香港・4月にタイが目立つ ➤ 天狗山エリアでは、1月は中国、2~11月は台湾、12月は香港が最多 ➤ 築港エリアでは、1月・2月・12月は中国、3月・4月は台湾、5月は香港、6~11月は台湾が最多 ➤ 朝里川温泉エリアでは、1月・2月は中国、3月・4月は台湾、5~12月は韓国が最多
来訪時間帯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 日本人に比べて、9~14時台に来訪が集中 ➤ 東アジア居住者は、2月が12~14時台、それ以外の月は9~11時台がピーク 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 中心部エリアでは、7月を除き12~14時台がピーク ➤ 小樽運河・堺町通り商店街でも、一年を通じて12~14時台がピーク ➤ 築港エリアでは、来訪時間帯が比較的分散
滞在時間・宿泊数	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 総じて日本人よりも長い、道外客を下回る月もみられる 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 宿泊地である朝里川温泉エリアのほか、銭函・張碓エリアでも平均滞在時間の長い月がみられ、特殊需要がうかがえる
周遊先	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 東アジア・東南アジア居住者は、札幌のほか千歳・余市・赤井川との周遊が特に多い ➤ 欧米豪居住者は、札幌のほか千歳・余市・仁木との周遊が特に多い 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 東アジア・東南アジア居住者は、中心部エリア-小樽運河-堺町通り商店街-築港エリア間の周遊が多い
冬季オーバーツーリズム	-	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 船見坂・JR銭函駅・祝津パノラマ展望台・天狗山ロープウェイでは、ピーク時間帯への集中が前年よりも深刻化するとともに、平均滞在時間が増加

◆ 今後は…

- 人気のエリア・地点において**特定時間帯へのインバウンドの集中が深刻化**している実態が改めて明らかになり、警備員配置などの対症療法のみならず、**エリアや時間帯の分散**を図る施策の検討・実行が急務
- 次年度以降もデータ分析を継続し、観光動態やオーバーツーリズムの**実態について定点観測**することで、多面的な現状把握や施策の効果検証などの**PDCAサイクルに寄与**することが望ましい